

授業科目 (科目ID)	心理学	担当教員  (実務経験)	新井田 光希  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間
授業目的	科学的なアプローチを用いた様々な実験を紹介し、人間の“心の機能”についての基本概念を把握することを目的とする。				
到達目標	人間の心の機能について説明、実践できる。				
テキスト・ 参考図書等	教科書は特に指定せず、各講義ごとにプリントを配付する。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	試験により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	プリントや板書を中心にした講義形式。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	心理学とは	心理学とは。この講義の概要など		
	2	認知心理学(1)	人間の認知機能について(記憶)		
	3	認知心理学(2)	人間の認知機能について(感覚)		
	4	認知心理学(3)	人間の認知機能について(知覚)		
	5	認知心理学(4)	人間の認知機能について(学習)		
	6	社会心理学	集団内での人間の行動について		
	7	臨床心理学(1)	医療分野で用いられる心理学の理論と実践的な方法(1)		
	8	臨床心理学(2)	医療分野で用いられる心理学の理論と実践的な方法(2)		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	表現基礎	担当教員  (実務経験)	横山昌明  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 別紙1参照		
対象年次・学期	1年・通期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	社会人として求められるコミュニケーション能力の基礎を習得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会に対応できる国語力(漢字力、読む力、書く力、話す力、聞く力)を身に付け正しい読解や表現ができるようになる。</li> <li>・臨床現場で必要なコミュニケーションを知る。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等	キャリアアップ国語表現法23訂版 嵯峨野出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40%	総合して評価する		
	レポート	20%			
	小テスト	20%			
	提出物	20%			
	その他	%			
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>①小テストは前回の授業で学習したことについて、事前に出題範囲を伝えて実施し、授業での理解度を確認する。</li> <li>②チーム医療における臨床工学技士の役割について活発な意見を求める。</li> </ul>				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	文法①	品詞の種類と働きを理解する。		
	2	文法②	動詞の種類と活用を理解する。(誤用:「ら」抜き言葉、「さ」入れ言葉)		
	3	文法③	接続詞と助詞の使い方と数助詞の種類を理解する。		
	4	文法④	語順と係り受け、語句の誤用。 文のねじれ(主語述語を正しくとらえる)を理解する。		
	5	語彙を増やす①	語と語の関係を理解する。(対義・類義・上下・並列)		
	6	語彙を増やす②	自動詞・他動詞・陳述の副詞を理解する。		
	7	敬語の使い方	丁寧語、尊敬語、謙讓語、二重敬語、敬語の誤り。		
	8	表記	漢字、送り仮名、仮名遣い。		
	9	長文読解	長文のテーマ、趣旨、論法を把握する。文のねじれの復習。		
	10	文章表現	小論文の書き方(文章の構成)を理解する。文のねじれの復習。		
	11	臨床工学技士の役割	臨床工学技士の役割と将来について学ぶ。		
	12	仕事の使命感について	働くということの価値観について考える。		
	13	医療接遇について	一般的な接遇と医療における接遇の違いについて考える。		
	14	チーム連携とは	チームの目的・目標・課題について考える。		
15	チームワーク強化について	コミュニケーションの重要性を知る。			



授業科目 (科目ID)	生物学		担当教員  (実務経験)	山内芳子  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	人間の身体を学習する上で基本である生物、特に細胞の機能について重点的に学習する。					
到達目標	・細胞の基本的構造と機能、細胞分裂、遺伝情報の発現について説明できる。・ME2種および国家試験の関連問題が解ける。					
テキスト・ 参考図書等	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第4版(羊土社)、プリント					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	最終評価は試験100%とする。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	①板書を中心に授業を進めるので、ノートをしっかり取る。 ②不明な点や理解できない点はそのままにせずに質問をして理解できるようにする。 ③毎時間理解度の確認のための小テストを実施し理解度を確保するため必ず復讐をして臨む。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	生物学の基本	進化論・細胞説			
	2	細胞のプロフィール(1)	細胞の構造、細胞内小器官の働き			
	3	細胞のプロフィール(2)	細胞内小器官の働き			
	4	細胞を構成する物質(1)	糖質、タンパク質			
	5	細胞を構成する物質(2)	脂質、核酸			
	6	遺伝情報(1)	遺伝子、染色体、DNA			
	7	遺伝情報(2)	遺伝情報の発現			
	8	エネルギー代謝	ATP産生過程			
	9	タンパク質の機能(1)	タンパク質の種類と機能			
	10	タンパク質の機能(2)	筋収縮			
	11	発生と分化(1)	DNAの複製、細胞分裂			
	12	発生と分化(2)	突然変異			
	13	発生と分化(3)	減数分裂、受精			
	14	発生と分化(4)	発生過程			
15	遺伝の法則	メンデルの法則				

授業科目 (科目ID)	物理学		担当教員  (実務経験)	小山 有基  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	基礎工学の基礎である物理を学び、科学的思考の基盤を固める。				
到達目標	・接頭語および単位を使用できる。 ・各種物理量およびその算出ができる。 ・ME2種および国家試験の物理学分野の問題が解ける。				
テキスト・ 参考図書等	プリントを配付				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90%	①定期試験 ②小テスト 以上を総合して評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の 留意事項	予習復習を徹底すること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	単位	SI単位、単位換算、次元		
	2	力学(1)	速度		
	3	力学(2)	力、応力		
	4	力学(3)	エネルギー、仕事		
	5	力学(4)	振動		
	6	力学(5)	流体力学		
	7	熱力学(1)	熱力学第一、第二法則(1)		
	8	熱力学(2)	熱力学第一、第二法則(2)		
	9	波動(1)	波動、音波(1)		
	10	波動(2)	波動、音波(2)		
	11	光(1)	光学(1)		
	12	光(2)	光学(2)		
	13	現代物理	電子、原子		
	14	電気(1)	電磁波(1)		
15	電気(2)	電磁波(2)			

授業科目 (科目ID)	数学	担当教員  (実務経験)	中西 勝範  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	理工学の最も基礎となる科目である。数式とグラフの取り扱いに慣れ、他の工学分野の内容を把握するための礎を築く。				
到達目標	計算力を養い、指数関数、対数関数、三角関数の関数を扱える。				
テキスト・ 参考図書等	教科書は特に指定せず、各講義ごとにプリントを配付する。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	試験により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	講義の各回に小テストを実施し、理解度を確認します。わからない部分はそのままにせず、質問をすること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	数と式(1)	実数、絶対値		
	2	数と式(2)	根号、平方根、有理化		
	3	数と式(3)	整式の加法、減法、乗法		
	4	数と式(4)	因数分解		
	5	数と式(5)	整式の除法		
	6	数と式(6)	分数式		
	7	2次関数(1)	2次関数とグラフ		
	8	2次関数(2)	2次方程式と2次不等式		
	9	指数関数・対数関数(1)	指数の拡張と指数法則		
	10	指数関数・対数関数(2)	指数関数と対数関数		
	11	指数関数・対数関数(3)	常用対数と自然対数		
	12	三角関数(1)	三角関数		
	13	三角関数(2)	加法定理		
	14	総合問題練習(1)	問題練習(1)		
15	総合問題練習(2)	問題練習(2)			

授業科目 (科目ID)	英語 I		担当教員  (実務経験)	西村 智嘉男  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	(1)日本語と英語の言語構造の違いがわかり、英文法に対する理解が深まる。 (2)日本語と英語を比較することで、英語だけではなく日本語に対する理解が深まる。				
到達目標	「日本語と英語の違いは何か」と問われた時に、具体的に返答することができるようになる。				
テキスト・ 参考図書等	プリントとパワーポイントのスライドを使用。テキスト・参考図書はなし。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	レポートと小テストの合計を100点満点に換算して評価		
	レポート	90%			
	小テスト	10%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	積極的に質問をすること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	日本語と英語。語順に対する考え方は大きく違う	日本語は「てにをは」の文化 英語は語順(配置)の文化		
	2	日本語にはない英語の語順(配置)のルールを学ぶ 1	他動型の説明を通して主語・動詞・目的語の説明。文型は英語学習上最も重要。		
	3	日本語にはない英語の語順(配置)のルールを学ぶ 2	基本5文型の概略を説明。		
	4	主語で動詞の形が変わる英語。	日本語にはない感覚。日本語が特別なのか、英語が特別なのか。		
	5	数にうるさい英語、数え方にうるさい日本語 1	数にこだわらない日本語。英語は単数と複数を明確化。可算名詞と不可算名詞。		
	6	数にうるさい英語、数え方にうるさい日本語 2	日本語には、英語にない助数詞(個、冊、匹など)の存在。		
	7	モノ(名詞)表現に繊細な英語 1	I have a pen. I have the pen. 何が違うのか。a=決まらない。the=1つに決まる。		
	8	モノ(名詞)表現に繊細な英語 2	日本語にはない限定詞の考え方(someやany等)		
	9	修飾方法の違い	前からしか修飾しない日本語 前から指定。そして後ろから説明する英語。		
	10	基本5文型 1	①自動型 ②説明型 ③他動型 ④授与型 ⑤目的語説明型		
	11	基本5文型 2	①自動型 ②説明型 ③他動型 ④授与型 ⑤目的語説明型		
	12	基本5文型 3	①自動型 ②説明型 ③他動型 ④授与型 ⑤目的語説明型		
	13	基本5文型以外で覚えておくべき3つの型	①レポート文 ②命令文 ③there文		
	14	基本文型の拡張 1	①主語の拡張 ②目的語の拡張 ③説明語句の拡張		
15	基本文型の拡張 2	①主語の拡張 ②目的語の拡張 ③説明語句の拡張			

授業科目 (科目ID)	化学		担当教員  (実務経験)	山内 芳子  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数 16時間
授業目的	基本的用語、物質の構造や性質、酸・塩基、酸化・還元等の化学的な計算方法を理解する。				
到達目標	生体機能代行装置の操作管理に必要な化学分野の知識を説明できるようになる。				
テキスト・ 参考図書等	プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	試験により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の 留意事項	板書やプリントを使いながら化学の基礎・基本的事項を学習するので、復習をしっかりと行うこと。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	原子	原子、原子量、同位体、同素体、周期表		
	2	化学結合	イオン結合、金属結合、共有結合、分子間力		
	3	物質の質量と濃度(1)	モル濃度と当量濃度、浸透圧(1)		
	4	物質の質量と濃度(2)	モル濃度と当量濃度、浸透圧(2)		
	5	物質の質量と濃度(3)	モル濃度と当量濃度、浸透圧(3)		
	6	気体とその性質(1)	ボイルシャルルの法則、気体の状態方程式、医療ガス(1)		
	7	気体とその性質(2)	ボイルシャルルの法則、気体の状態方程式、医療ガス(2)		
	8	酸化・還元	酸・塩基、中和、pH		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					



授業科目 (科目ID)	人体の構造及び機能 I	担当教員  (実務経験)	山内 芳子  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・通期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	医学分野の最も基本をなす解剖学・生理学・発生学を学ぶことで正常な人体の構造と機能を理解する。				
到達目標	人体の構造・機能の説明を求められた場合、正しい説明ができる。				
テキスト・ 参考図書等	人体の構造と機能 第5版(医歯薬出版)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	試験により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	板書だけでなく、質疑応答の中でのキーワード等もメモを取り、後から参照できるように努めること。				
	回数	履修主題	履修内容		
履修主題・ 履修内容	1	解剖生理総論	身体の構築レベル、生命維持プロセス、ホメオスタシス		
	2	人体の構成	細胞、組織		
	3	骨格系	骨の形と構造、骨のつき方、関節		
	4	外皮系	皮膚の構造と機能		
	5	神経系(1)	神経系とは、神経細胞、シナプス		
	6	神経系(2)	中枢神経系(1)		
	7	神経系(3)	中枢神経系(2)		
	8	神経系(4)	末梢神経系		
	9	運動系(1)	骨格筋の構造と機能		
	10	運動系(2)	運動の調節		
	11	感覚器系(1)	体性感覚		
	12	感覚器系(2)	視覚		
	13	感覚器系(3)	聴覚・前庭感覚		
	14	感覚器系(4)	味覚・嗅覚		
	15	生殖器系	内生生殖器、外生殖器		

授業科目 (科目ID)	人体の構造及び機能Ⅱ	担当教員  (実務経験)	本吉 竜浩  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 臨床工学技士として病院勤務。当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年・通期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	医学分野の最も基本をなす解剖学・生理学・発生学を学ぶことで正常な人体の構造と機能を理解する。				
到達目標	人体の構造・機能の説明を求められた場合、正しい説明ができる。				
テキスト・参考図書等	人体の構造と機能 第5版(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	試験により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	板書だけでなく、アクティブラーニングを取り入れるため自発的に取り組むこと。後から参照できるように努めること。				
	回数	履修主題	履修内容		
履修主題・履修内容	1	血液系(1)	血液、血液型		
	2	血液系(2)	体液の循環、免疫		
	3	循環器系(1)	心臓、血管、動脈静脈系		
	4	循環器系(2)	心臓の拍動、血圧		
	5	循環器系(3)	胎児循環、リンパ系		
	6	呼吸器系(1)	呼吸器の発生、鼻、咽頭、喉頭、気管		
	7	呼吸器系(2)	肺、縦隔、呼吸の調節		
	8	呼吸器系(3)	呼吸運動、肺の呼吸機能		
	9	泌尿器系(1)	腎臓、膀胱、尿路		
	10	泌尿器系(2)	尿の生成、尿量の調節と排尿(1)		
	11	泌尿器系(3)	尿の生成、尿量の調節と排尿(2)		
	12	消化器系(1)	消化器の流れ、消化と吸収		
	13	消化器系(2)	肝臓、膵臓、胆嚢		
	14	内分泌系(1)	腺構造と分泌ホルモン、作用(1)		
	15	内分泌系(2)	腺構造と分泌ホルモン、作用(2)		

授業科目 (科目ID)	解剖学  22r109	担当教員  (実務経験)	本吉 竜浩  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 臨床工学技士として医療機器を用いた治療および危機管理に従事し当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	臨床工学への応用を考慮しながら、各器官の解剖学的特徴をその機能と関連づけて理解する。				
到達目標	人体を構成する各器官、臓器の構造学的特徴とその機能的役割を理解し、説明できる。				
テキスト・参考図書等	プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	試験により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	50%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	板書だけでなく、積極的に自己学習に努める事。授業の終わりに毎回確認小テストを行う。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	骨格系について	骨の形と構造、骨のつき方、関節、体幹の骨、体肢の骨、頭蓋骨		
	2	筋系について	筋の形と分類、各部の筋		
	3	循環器系(1)	心臓について(1)		
	4	循環器系(2)	心臓について(2)		
	5	循環器系(3)	動脈と静脈・リンパについて		
	6	呼吸器系(1)	肺の構造(気道・肺胞)		
	7	呼吸器系(2)	呼吸筋、呼吸補助筋について		
	8	呼吸器系(3)	換気メカニズム(呼吸運動)		
	9	消化器系	消化管について(口・食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・直腸・肛門)		
	10	泌尿器系(1)	腎臓とネフロンについて		
	11	泌尿器系(2)	排尿路について(尿管・膀胱・尿道など)		
	12	内分泌系	内分泌腺について(脳下垂体・副腎・甲状腺など)		
	13	神経系	中枢神経について(脳・脊髄)		
	14	感覚器系	味覚・聴覚・視覚と知覚について		
15	生殖器系・まとめ	男女の生殖器、今までのまとめ			